



新着本案内1月号

愛知みずほ大学瑞穂高等学校
瀬木学園図書館
平成31年1月18日

『脱!スマホのトラブル』佐藤佳弘著 (007.3/サ)



スマホで被害者又は加害者にならないための本です。スマホの新しいサービスが次々と生まれ、それに伴い学校裏サイト、アダルトサイト、個人情報の漏洩など、さまざまなトラブルに遭遇する確率が増えてきました。小中高校で「スマホの危険」や「正しい使い方」について数多く講演をしている著者が、トラブルの事例と対策を豊富なイラストを使って解説しています。

『戦争の世界史大図鑑』R.G.グラント編著 (203.6/グ)



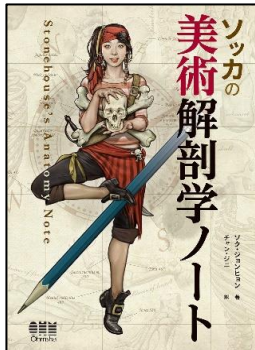
古代から現代まで人類5000年の戦争を網羅し、多角的で新しい視点から読む画期的なオールカラーのヴィジュアル大図鑑です。西洋から東洋・辺境の地まで世界中の戦争の年月日、原因、経過、結果、影響を正確に説明し、地図、指導者、兵力、兵員数、死傷者数などの基礎史料が充実しています。読み応えのある1冊です。

『The last girl』ナディア・ムラドほか著 (302.27/ム)



「この世界でこのような体験をする女性は、私を最後(ラスト・ガール)にするために」
2018年ノーベル平和賞受賞、ナディア・ムラドの自伝が翻訳刊行されました。21歳でイスラム国に家族を虐殺され、自身も性奴隷として壮絶な苦しみを受けた著者が「戦時下での武器としての性暴力」の実態を告発します。

『ソッカの美術解剖学ノート』ソク・ジョンヒョン著 (701.5/ソ)



将来、絵に携わる仕事に就きたい人必見！
韓国の有名漫画家であるソク・ジョンヒョンが9年の歳月をかけて描き上げた美術解剖学の書籍です。特に解剖学的な自然さに基づく人の動きをどう描くかについて頁を割いて、丁寧に解説しています。さらに、1コマ漫画がちりばめられていて、人体構造の説明も楽しんで読み進められる工夫がなされています。

『怖い短歌』倉阪鬼一郎著 (911.16/ク)



西行、上田秋成、与謝野晶子、小川太郎ら、さまざまな歌人の歌集から集めた多彩な怖い短歌を、「怖ろしい風景」「向こうから来るもの」「死の影」「変容する世界」「日常に潜むもの」などの9つの章で構成しました。「怖さ」という見えない塔をぐるぐると逍遥(読み:ショウヨウ、意味:そぞろ歩き。散歩。)するかのような奇想の著です。

乙女の本棚シリーズ

『外科室』泉鏡花著/ホノジロトラジ絵 (913.6/イ)

『夢十夜』夏目漱石著/しきみ絵 (913.6/ナ)



乙女の本棚最新作は人気ゲーム『刀剣乱舞』の絵師と文豪によるコラボレーション！オールカラーで小説と描き下ろしイラストが楽しめる魅惑の1冊です。

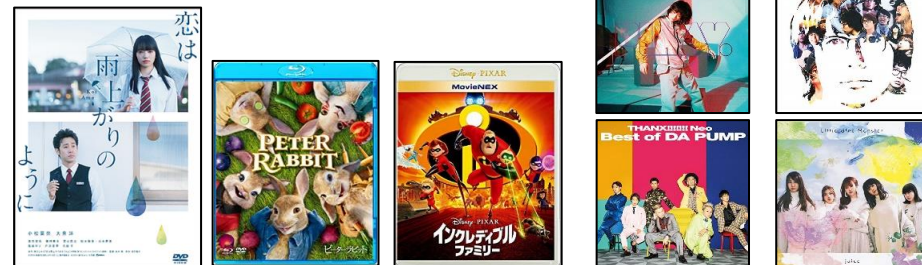
DVD・CD新着案内

新着DVD

- 『カメラを止めるな!』 『銀魂2』 『恋は雨上がりのように』
- 『となりの怪物くん』 『友罪』 『ラプラスの魔女』
- 『オーシャンズ8』 『ジュラシック・ワールド：炎の王国』
- 『ピーターラビット』 『マンマ・ミーア!：ヒア・ウィー・ゴー』
- 『ワンダー：君は太陽』 『インクレディブル・ファミリーMovieNEX』

新着CD

- 『PLAY』 菅田将暉 『STARTING OVER』 高橋優
- 『高橋優BEST：2009-2015笑う約束』 高橋優
- 『THANX!!!!!! Neo Best of DA PUMP』 DA PUMP
- 『Juice』 Little Glee Monster



小川副校長先生の推薦本

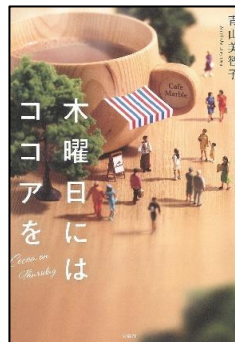
小川先生のコメント：著者は、私の教え子でもあります。小さいころから文章を書くことが大好きで、念願の小説家としてやっとデビューできたと喜んでいました。『猫のお告げは樹の下で』には、占い師が出てくる話がありますが、著者自身が占いの勉強をして、「私、占い師もやったんです。」と書いていました。自身のことを振り返り、「今、自分が何かを好きだという気持ちに誇りを持ってほしいと思う。」「一生のうち、何度も違う時代が訪れて、何度でもスタートできるのが人生だと思う。何度目かの時に『好き』を広げてくれる可能性を、私はいつも信じている。」とのこと。本の装丁は人気ミニチュアアーティストの田中達也氏が担当していますが、著者がお願いして実現したそうです。

『猫のお告げは樹の下で』青山美智子著 (913.6/ア)



人生の苦に思い悩む登場人物が、ふとしたきっかけで神社に立ち寄り、不思議な猫「ミクジ」からタラヨウの葉っぱを授かります。宮司さんから「その“お告げ”を大事にした方が良いでしょう」と言われます。何でもない言葉をきっかけに、物語は展開していき、思い悩む人たちの前に明るい道が開けていくのです。著者の人々を描く温かなまなざしが伝わって、人と人とのつながりのありがたさを感じさせられます。人間関係に悩んでいる人が、明日に向かって一歩踏み出せるようになる一冊だと思います。

『木曜日にはココアを』青山美智子著 (913.6/ア)



喫茶店の常連客「ココアさん」から始まる12色のストーリーが、穏やかに繋がって輪になっていきます。一つの物語にちょっと登場する人物が、次の物語では主人公になって、人生の一コマが鮮やかに展開します。私たちの周りにも、知らないうちにつながっている人たちがきついていることでしょう。そして、誰もが人生の一コマで誰かと関わって喜怒哀楽を経験し、豊かな人生を紡いでいくのでしょうか。すべての人が私にとって大切になりうる、そんなことにも気づかされます。